

第3回 紀の川市教育課程検証委員会

平成28年12月19日
本庁舎4階402会議室
17:30～19:30

1 開 会

2 委員長あいさつ

お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

先日、事務局から本日の開催通知に同封して、会議資料として答申（案）が届けられたことと思います。本日は、その答申（案）について委員の皆様からご意見をいただき、「紀の川市立小中学校の学期制及び長期休業期間の短縮のあり方についての答申」として完成させたいと思いますので、ご審議のほどよろしく願います。

3 議 事

- (1) 紀の川市立小中学校の学期制及び長期休業期間の短縮のあり方についての答申（案）について

〈委員長〉 それでは、議事（1）紀の川市立小中学校の学期制及び長期休業期間の短縮のあり方についての答申（案）について、事務局から説明をお願いします。

〈事務局〉 それでは、先日お届けしました会議資料の紀の川市立小中学校の学期制及び長期休業期間の短縮のあり方について答申（案）をご覧ください。

表紙をめくっていただきますと、目次としてこの答申（案）の構成を表示しています。

次に、「はじめに」として、2学期制および夏季休業期間の短縮について、これまでの成果や課題を踏まえた検証および今後の方向性についての意見を求める諮問を受け、教育課程検証委員会を設置した経緯をまとめています。

次に、「審議経過」として、教育課程検証委員会の設置から各回の委員会の審議内容をまとめています。

次に、「審議日程」として、各回の委員会の日程と内容及び意識調査の実施日程をまとめています。

次に、「諮問文」として、貴志教育長から教育課程検証委員会委員長あてに提出された諮問文を掲載しています。

次に、「学期制のあり方」と「長期休業期間の短縮のあり方」を第1章と第2章に分けて、それぞれ「導入の経緯」、「成果」、「課題」、「あり方」についてまとめています。

「2学期制導入の経緯」では、紀の川市内で最初に2学期制が導入されてから現在までの経緯と2学期制を導入することにより、充実を図ることを目指した6項目をまとめています。

「2学期制の成果」では、充実を図ることを目指した6項目の成果について、平成23年5月に実施した学期制検証調査や今回の意識調査を基にまとめています。

「2学期制の課題」では、充実を図ることを目指した6項目の課題について、平成23年5月に実施した学期制検証調査、今回の意識調査及び前回の委員会で各委員からいただいた意見を基にまとめています。

「学期制のあり方について」では、「2学期制の成果」と「2学期制の課題」を踏まえて、今後の学期制のあり方についてまとめています。

「長期休業期間の短縮導入の経緯」では、平成26年度から導入された長期休業期間の短縮の経緯をまとめています。

「長期休業期間の短縮の成果」では、今回の意識調査と前回の委員会で各委員からいただいた意見を基に長期休業期間の短縮の成果をまとめています。

「長期休業期間の短縮の課題」では、今回の意識調査と前回の委員会で各委員からいただいた意見を基に長期休業期間の短縮の課題をまとめています。

「長期休業期間の短縮のあり方について」では、「長期休業期間の短縮の成果」と「長期休業期間の短縮の課題」を踏まえて、今後の長期休業期間の短縮のあり方についてまとめています。

なお、今回の資料には添付しておりませんが、資料として「教育課程検証のための意識調査の結果」、「教育課程検証委員会設置要綱」、「教育課程検証委員会委員名簿」を答申に添付する予定でございます。

以上で、「紀の川市立小中学校の学期制及び長期休業期間の短縮のあり方について答申（案）」について、事務局からの説明を終わります。

〈委員長〉 ただいま、紀の川市立小中学校の学期制及び長期休業期間の短縮のあり方について答申（案）」について、事務局から説明を受けました。

事前に手元に届いていたと思いますが、じっくりと目を通す時間の無かった委員もいると思いますので、どこからでも結構ですので、お気づきの点についてご意見をいただきたいと思います。

〈委員A〉 意識調査の対象者と対象人数は別に意識調査の結果に記入されるのでしょうか？

〈事務局〉 資料編の意識調査の結果に記入します。

〈委員長〉 前回の資料の意識調査がそのまま添付されるのでしょうか。

〈事務局〉 そのとおりです。審議日程にも意識調査の対象者と対象人数の記入が必要であるとの意見があれば記入させていただきます。

〈委員長〉 前回は結果として配付された意識調査には「その他の理由」もありましたが、それもそのまま載せるのでしょうか。

〈事務局〉 そのつもりですが、その点についても審議いただきたいと思います。必要でないとの意見があれば変更します。

〈委員長〉 アンケート質問用紙は載らないのですか。

〈事務局〉 アンケート質問用紙とアンケート結果を載せます。「その他の理由」も含まれます。

- 〈委員長〉 いかがでしょうか。
- 〈委員B〉 アンケート調査結果を全て載せるというのは、答申として載せるのであって、市教育委員会が広く一般に公表する際には、これを掲載するかは未定ですか。
- 〈事務局〉 基本的には、答申は公表したいと考えていますが、自由記載の部分で公表するには相応しくない部分があるかもしれないので検討した方が良いとなれば、自由記載については答申の公表部分から抜き添付資料扱いとする手段も考えられます。
- 〈委員B〉 答申としては、「その他の理由」も含めて作成すると理解して良いのですか。
- 〈事務局〉 基本的にはそう思っていますが、それも含めて議論して下さい。「その他の理由」を添付するのが望ましくないとの意見があれば議論して下さい。
- 〈委員長〉 事務局の説明では、2つのパターンが考えられます。自由記載を答申に添付するが公表からは外すパターンと答申にも外すパターンです。自由記載を1つずつ吟味して、どれを載せてどれを載せないといったことは有り得ないので、全部外すか全部載せるしかありません。それともう1点、答申として出されたものと公表されているものの中身が一部異なることは、色んな憶測を持たれるおそれがあるので、「載せるなら載せる」、「載せないなら載せない」ということで、自由記載については、論述の中で一部用いるが全体は公表しないとすることです。答申に自由記載を載せるか載せないかについて、委員はどのような意見でしょうか。1つの問題として、意見があれば記入して下さいとする設問は、答申に載ることを前提に自由記載が記入されているのかということですが、載ることが前提なら記入しなかったのに載ってしまったことがなければよろしいのですが、事前に断っていたのでしょうか。
- 〈事務局〉 ただいまの件につきましては、公表や答申に載ることを前提にして記入いただいております。
- 〈委員長〉 記入者に断っていないということですね。どうでしょうか。
- 〈委員C〉 公表する文書として載せるのであれば、もっと言葉を分かり易く説明して誰が読んでも分かる内容にする必要があります。言葉足らずの部分もあります。このままの文章で載せるのはどうかと思います。
- 〈事務局〉 基本的に、このアンケートの目的は、項目ごとにどのように考えているのか調べることを主眼としており、自由記載は、自分の思ったことをその項目について記載してもらうもので、厳密に言えばアンケートの中身がアンケートの本来の目的であるので、自由記載はあくまでも付録的な意味が強いものです。自由記載であるために言葉足らずの部分があるかもしれませんが、それをそのまま出した場合に誤解をされる可能性があるかもしれません。
- 〈委員長〉 保護者の方にも色々と記入していただいているのですが、公表されることを断っていないため、かなり自由に記入していただいているところがあって、

誰が記入したか分かることはありませんが、自由記載については、討議等での参考にさせていただきますが、答申等に載せて公表することは差し控えさせていただくということで、改めて答申等への意見がある方には別途この答申を出したところで意見を伺ったり求める機会があると思いますので、その際に意見を主張していただくことでよろしいでしょうか。公表したくて記入した人がいるかもしれませんが、その方については答申をまとめた後で、みんなの意見を伺う機会がありますので、そこで言うていただくことにします。アンケートのパーセンテージ等の結果については、公表するということです。ただ、この結果のところは色々質問として記入されていますが、そういうこと言うと、この文章の公表が良いのか、それともグラフの方が良いのか、アンケート用紙を別途付けるとすれば、数字で表現するよりもこのグラフを付けてもらった方が見やすいと思います。

〈事務局〉 グラフと集計結果の内容を両方出す予定です。どういう設問か見えてグラフも見えた方が実感沸きますので、両方付けたいと考えています。

〈委員長〉 グラフと設問を別々に標記すると見づらいので、見る方の手間が省けるようにして下さい。

〈事務局〉 アンケート項目は一番最後に付けた方がよろしいでしょうか。

〈委員長〉 普通は、項目が参考として最後に付きますが、解説の文字だけあって、その後ろにグラフがあったら、いちいち見比べなければいけないので、解説にグラフを挟んで下さい。見る方の手間が省けるようにして下さい。

〈委員D〉 調査結果のまとめの中で、別冊「その他の理由等」に記載となっている内容については、具体的にどのように記載するのか確認したいのですが。

〈事務局〉 別冊が入らないことになりますので、そこに文言を付け加えることになります。いくつか意見があれば、2つ3つ代表する理由を記入する形にさせていただきます。

〈委員D〉 多い順ではないと思いますので、主旨が似た意見をまとめていくつか記入する形になるのでしょうか。

〈事務局〉 特徴的な意見を別紙参照ではなく、書き込む形にしたいと思います。

〈委員長〉 添付資料については、自由記載はそのまま添付せず、調査結果については文字だけでなくグラフを入れて見やすくして、それから「その他の理由等」は2つ3つ代表的な意見を記入してまとめることになります。

〈事務局〉 別冊「その他の理由等」に記載となっている部分は、代表的な意見をまとめて記入することでよろしいでしょうか。

〈委員D〉 その部分が気になりましたので、それで結構です。

〈委員長〉 資料の部分は、先ほど議論していただいたとおりとします。本文の方についてご意見ありませんか。

〈委員C〉 学期制のあり方については、それほど気になる所は無かったのですが、2章の「長期休業期間の短縮導入の経緯」のところ、1行目から無理があると思います。中学校普通教室へのエアコンの導入完了に伴って小学校も長期休業期間の短縮を導入したことでなっていますので、書き出しを「中学校においては」として「夏季休業期間を7月21日から8月24日までに短縮し、小学校においては8月24日までに短縮するため、平成25年12月の・・・」と中学校と小学校を別の文章に分けて記載した方が分かり易いです。授業時間の確保を目的に長期休業期間の短縮を導入した主たる目的が分かると思います。

〈委員長〉 この件につきましては、前回の委員会でもエアコン導入が長期休業期間の短縮の理由ではないと意見がありましたので、エアコン導入ありきでは学校の教育課程の判断としてどうかと思います。ご指摘のとおり授業時間の確保が目的であり、中学校ではエアコンの導入もあったので24日までに繰り上げられ、小学校においては、中学校より短い28日までになっていることを記入した方がよいと思います。そうしないと、小学校において今後さらに短縮を検討することに繋がらないと思います。中学校と同じくエアコンが導入されたので、更に短縮することも環境的には可能かもしれないことでこの検討が始まったと思います。今の箇所では他の委員からご意見ございませんか。それでは、委員Cの意見のとおり修正願います。

〈委員C〉 「2 長期休業期間の短縮の成果」の始め部分の「小学校と中学校1・2年生の授業時数は現状でも確保できています」で中学校は学年記入があるので、「小学校全学年」とすべきだと思います。そして、「臨時休校も毎年発生しているため、リスクマネジメントのためにも」の部分で、「ため」が重複しており、「リスクマネジメント」の言葉は、自分たちの中では使う言葉ですが、一般の市民向けに答申するのであれば、「リスクマネジメントのためにも」の言葉は省くべきだと思います。そして、「この3理由だけでも80%以上を占め」の80%以上という数字は、何に対するに80%以上なのか分からないので説明が必要だと思います。

〈委員長〉 今、2の短縮理由の所ですが、意識調査結果をパーセンテージ表記で扱っているのですが、今の解釈でいいのでしょうか。

〈事務局〉 全体件数の内、何%か分かるように全体件数を記入することでよろしいでしょうか。

〈委員C〉 全体件数の内80%という数字は変わってきます。この80%以上という数字が分かりません。

〈事務局〉 3つの理由で全体88件の80%以上を占めているということなので、この表現を分かり易く修正する必要があると思います。

〈委員C〉 「3理由だけで88件の80%以上を占め」とすれば良いと思います。

〈委員長〉 複数選択可の設問であるためにパーセント表示の足算は意味がないので、表現方法を変更する必要があると思います。また、意識調査の状況を記入していますが、意識調査の何番目の設問か括弧記入がないので分かりにくいです。全体を通して意識調査の結果状況を記入する場合には、何番目の設問か分かり易く番号を記入してもらいたいです。他に何かございませんか。

〈委員C〉 11ページの「しかしながら、小学校では・・・」の部分で、「現状で授業時間が確保できている」と記入していますが、小学校では現状と言うよりも以前から夏休みを短縮しなくても授業時数が足りていましたが、今回検証していく中で既に決めていることについて訴えていくポイントがあるなら、「現状で」を残してもいいと思います。

〈委員長〉 この件については、前回の委員会でも議論があったところです。小学校は夏季休業短縮で29日から授業を開始しており、これを中学校同様に更に短縮するかの議論の際に、小学校はこのままでいいのではないかとの議論があった時に、8月31日まで夏季休業があっても授業日数は足りていたと意見があって、28日に短縮したことについて、28日までに短縮する必要がどこまであったのかについて、先生方の一定の疑問が残ると意見が有りながらも、2の所出てきましたような大雨洪水による臨時休業が近年多くなっているの、それを事前に組み込んでおけば後で急遽対応することが必要ないであろうということ、3日間の前倒をしていることは、そういうことを含んで肯定ということであったと思います。

〈委員C〉 それで、「現状で」でもいいと思います。

〈委員長〉 その部分は、もう少し丁寧に書く方が良くかもしれません。8月31日まで夏季休業があっても授業時間の確保ができていたが、近年の異常気象等で臨時休業が増えていることを事前に取り込んでおいて、余裕をもって設定することで3日短縮するところで、そういったことに対応する余裕をもつことで小学校の方は、今3日短縮のものを今後も続けていき、それ以上の短縮は必要ないということだと思います。その部分を丁寧に記入することにしましょう。要は、これまでも授業時間が足りなかった訳ではないので、3日短縮になったことは、事前策として余裕を持つことで、ここで3日短縮にしておかないと、冬休みに急遽日数確保ということになれば、難しいこともあるので、ご理解いただくためにも必要であると思います。前回意見がありましたように、夏休みをそんなに短くしなくても良いと思っている保護者もいますので、そのような方への説明という意味でもと思います。短縮は現状前の状況で時間数が足りているのと「現状の」という記載で分かり難いということであろうかと思います。11ページの「中学校では」以降の記載でご意見はどうでしょうか。

〈委員E〉 11ページの「中学校では現状の短縮により教員が非常に厳しいスケジュールになっている状況であり」の記述で、教員が読んだ場合には「なるほど」と思うのですが、一般の市民が読んだ場合にどのように思うのか非常に悩ましいところがあると思いました。先生は授業しないだけでスポーツの大会へ行き部活動を指導するのは仕事であり、一般的には5日間程の特別休暇があって、我々にもあって、その内3日間は必ず取るなら中学校の教員が良いので、教員は楽

をしているとしか受取られないとしたら非常に心外なことだと感じがして、この書き方は少し「しんどい」と思っています。あえて書く必要があるのかと思います。

〈委員長〉 いかがでしょうか。この件については、前回・前々回にも議論いただいて、教員側からするとここに記入しているとおりはありますが、この実態・現状についてこの文章でそれが伝わるのかということですが。

〈事務局〉 前回の委員会で、教員の現状の厳しい状況を答申に盛り込んで欲しいという意見を反映させていただいた表現にしています。

〈委員長〉 それは確かにそうですが、この2行の文章で委員Eの懸念が残るところについて、他の委員のご意見をいただきたいと思えます。

〈委員F〉 小学校では、現状で授業時間が確保できている部分と中学校も3年生だけ除けば、現状で足りていると入れてもいいと思えますが、この2行を他の言葉で代えられるかと言えば、他に言葉はないと思えます。

〈委員C〉 2行について、視点を教師にすれば、この表現でいけると思いますが、委員Eが心配されているように、一般の市民の視点にすれば、ここの文章であれば「忙しい」ということが主体になっていて、子供の授業時数と授業理解といった視点が欠けていると受取られる懸念はないでしょうか。

〈委員G〉 私もそう思いました。「忙しい」・「非常に厳しいスケジュール調整」というのは目線が先生側のように受取られがちな表現なので、事実を書けばいいと思えます。夏休み前半は部活動で、後半は研修等の参加が必要になるため、実際そのようなのですが、「忙しい」、「非常に厳しいスケジュール調整」という文言が気になります。

〈委員E〉 自分が現場に居て思うのは、年休は取得できず、取得できるのは長期休業中になり、生徒が学校に居る限りは学校があるので年休が取得できません。取得できないところで年休取って何かしようと思っても研修が入ってくると言いたいが、ものすごく先生が楽しそうとしか見えないところが気になります。

〈委員長〉 ご意見はよくわかりますが、ただそれを理解してもらうところまで十分持って行こうとすると、ものすごく説明が必要だと思えます。例えば、いかに教員の年休取得が少ないとか、学期中に年休を取得することは有り得ない状況とか、夏休中でも取得できないとか、そういった労働環境について国際的なこともあり、文部科学省も一定の見直しが必要と言っている状況の中なのだとということをつらつら書いて、先生も研修に打ち込める1週間程度があってもいいのではないかということでしょうか、それを文字にして丁寧に保護者に理解いただけるまで記載するか、もうあとはこの2行を誤解のないようにスラッと流すかのどちらかしかないと思えます。この際だから、保護者に理解いただけるまで書いたら書くということだと思えます。これは教員側からだけで書いていますが、例えば、子供たちは夏季休業の前半は夏季大会に出場していますので、お盆休みがあって、明けた時に夏休の宿題とか落ち着いて次の2学期に

備えて勉強を再開しようと子供自身も切り替えモードに入る1週間が必要な気もします。それは教員も同じで、夏季休業の前半は部活動で頑張っ、後半は2学期に備えて様々な準備をする時間を確保することが授業の質を高めていくこととなります。ここでは研修会等と簡単に書いていますが、「2学期に向けての授業準備等を十分に作る」を含めての研修だと思いますので、教員もお盆休みが終わったらすぐに授業が始まるのでは準備がなかなかできないということでしょうか。

〈委員E〉 もう1つ、お盆休みが終わった後に悉皆の研修が2回3回連続で実施されるのが通例になっているので、この研修参加が「しんどい」です。

〈委員長〉 それで益々しんどくなっているのがいっぱいあるのですね。だから、それについても一定の記述を入れましょうか。例えば、「お盆休み明けに県の研修とかいっぱい入ってきて、更に2学期の準備をしようとしているのに悉皆研修が入ってきて準備の時間が取れない状況にある」ということなので、これ以上夏季休業を短縮すると教員の2学期の準備時間がほとんど取れなくなってしまっているというようなことでしょうか。

〈委員E〉 私は削除してしまった方がいいと思います。記入すれば「くどくど」となってきましたし、今言ったように夏休の後半に続けて研修を入れられると一番しんどくて、しんどいまま夏休が明けてしまい、「何にもできずに夏休が終わってしまった」とよく聞きます。それからすると、そこらを職員の健康やメンタル面とかよく言われますが、「誰が崩しているのか」・「そっちが崩しているのと違うか」と言いたくなります。子供たちの大会は、一生懸命指導しなければいけないと教員は皆思っていますが、それ以外のことで、夏季休業の後半にわざわざそんなにも研修を入れて、それだけの効果があるのかと言いたい。だから、先ほどの「中学校では現状の」以降の記述は取ってしまったほうがスッキリすると思います。記述する場所がここでなくてもいいと思います。

〈委員長〉 この記述は、教師が主語になってしまっているの、まずは子供のことを考えて「こうあるべき」ということが一次的にあって、次に子供が「こうあるべき」ことを支えるために教師は「どうあるべきか」を記述するべきであろうということはよく分かります。ただ、先生方の辛い事情を伝えなくてもよいのでしょうか。子供のことを思って、お盆休みの後も少し夏季休業を続けることによって、子供たちの状況を平常に戻し2学期に備える効果も1つとしてあると思います。子供たちの学びを支えている先生方の状況もある程度お伝えした方が、全部ではないが一部にもっと短縮しても良いという意見も保護者からありましたので、子供の状況からもっと短縮することは無理でやるべきではないし、更にそういう子供さんたちの授業の指導の質を担保するためにも、教師にとって準備時間を確保することは必要だと言うことは正当な理由だと思います。実際に、中学校はどうしたいのですか。夏休はこのままでいいのですか。よく分からないです。

〈委員E〉 自分としては、現状維持です。もしくは、あと3日後ろへ短縮日数を短くすることです。

〈委員H〉 小学校と同じですか。

〈委員E〉 小学校になぜ長期休業の短縮が導入されたのかは、中学校に導入したから小学校にも導入したところもあると思います。ですから、1週間の短縮が正しかったのか。5日短縮で良かったのではないかと思うところです。

〈委員I〉 1週間の夏季休業の短縮が無かったら、中学3年生は授業時数は大丈夫ですか。今でもぎりぎり聞いていたのですが。

〈委員E〉 大丈夫です。ぎりぎりですが大丈夫です。どうするかというと29コマあるから、そこを順番にもう1コ30コマにすればいいからです。それでいけます。できないと思っているのは、29コマしか回せないと思っているからで、だから水曜日の6時間目に調整すればできるはずです。

〈委員長〉 それについては、校長先生がレイアウトをしっかりとやってみて、上手く調整できるかシュミレーションできている方とできていない方がいらっしゃるの、今後そのようなことができるということを校長会等で話し合っていていただく必要があると思います。まだそれは難しいという学校があれば、現状維持で、これ以上の前倒しをすることは有り得ないということが中学校では考えられます。

〈委員B〉 基本スタンスは、小学校も中学校も現状維持の夏季休業の短縮とすることでいいと思います。中学校も子供の目線で夏季大会の出場とか子供に対する準備で、「これでいいんだ」という表現にしたら、一般的に見ても教師がしんどいからというようなことは「くどくど」と説明できるのだったら、これくらいサラット言っとけばいいのかなと思います。

〈委員F〉 授業の時数についても、中学校は確保できている状況があるのだから、それも中学校のところに記述してもらった方が教師の立場からだけで書いているとはならないと思います。正当性もあります。

〈委員長〉 書き方にもよると思います。今ご意見のありましたことは、「今後を検証を進めていくことが必要であります」と最後に記述していますところで、何の検証を進めていくのかのところ、
「こういうことがまだ残っています」、「こういう課題が今後検討する必要があります」と記述することで挙げていけばどうでしょうか。例えば、「本当に1週間短縮が必要なのか」ということ、「5日でも可能ではないのか」ということもありますし、先生方が短縮になって多忙化されていることについて、「2学期の準備時間をいかに確保するのが課題だ」と挙げておけば、「こういう課題について今後別途に検証すべきだ」といった形で下の方で挙げていくことでどうでしょうか。全般のところでは現状維持として、「確保できているし、こういうことから考えても現状がいいです」として、「ただ今後については、こういう課題があるからこの点について今後改善する」と記述するとします。

長期休業期間の短縮については、この間からもかなりいろんな議論がありましたので、そこについて、再度意見が色々出ていますがいかがでしょうか。

〈委員D〉 先ほどの委員から意見が出ていたのですが、検証した結果を答申するという

のは、保護者や教員のアンケートの意見を基に、現状を分析して進めてきたためにこのような書き方になるのは仕方ないと思いますが、子供のことを中心に考えている感があまり伝わらないと客観的に思います。子供にアンケートを取ることは現実的ではないのですが、まとめの部分の今後のあり方についてというところの結びの辺りで、例えば8ページであれば、「3学期制移行準備委員会を組織するに至ったのは、このような議論があつて、このような調査結果があつて、それを踏まえて、紀の川市の子供たちがよりよい学校生活を送るために3学期制移行準備委員会を組織し」とか、結びのところに子供たちのことを一番考えている表現を記述した方が良いと思います。11ページの2章の4長期休業期間の短縮のあり方についても、下から3行目を見れば、教員の現実はこのとおりと感じていますが、子供のことを一番に考えている感が最後の3行では全く感じられません。子供にとってどのような長期休業期間のあり方が良いのか、もちろん保護者の思いや教員の働き方も踏まえて、子供のためにこんな形にしたいと言う表現を各章の結びの中で付け加えていく必要があると思います。

〈委員長〉 前回か前々回の委員会で、委員Gから「保護者にとっても子供に色んな経験をさせるのに夏休は大事です」と意見がありました。「夏休は休みで困る」ということだけではないことが意見としてありました。夏休は夏休としての意義があり、その夏休を子供達にどのように過ごさせるかが基本にあつて、それに対して何日が良いのかという議論だと思います。そのようなことを長期休業期間の短縮のあり方についても、子供のこういう姿を夏休中に見ることができるような夏休の位置づけが必要です。先ほど申し上げたように、2学期に対する準備も必要な時間帯だと思います。遊ぶだけ遊んで2学期に入るのではなく、夏休全体をどう過ごしてもらいたいのか学校の先生の思いとか入れていけば良いのかなと思います。だから、スポーツ大会出場を止めるとか思っているのではなく、それは大事な活動ですが、大会が終わったからといって2学期が直ぐに始まったのでは、1学期に足りなかったところをそれぞれの子供が補充して勉強するところに時間を当てることが十分にできないこともあると思いますので、そういったことを少し記述すべきだと思います。委員Dの意見は、学期制も長期休業期間の短縮のあり方も全く子供の姿が見えなくて、良かったか悪かったかの部分でもアンケートの中では、保護者の意見の中で若干ですが「こういう活動ができた」とか、子供の姿が見えるような意見もあるので、もう少しそういうところを拾っていくことも良いと思います。例えば、長期休業をこれ以上短縮しないに賛成のところだと、「家の手伝いや兄弟の面倒を看たり、そういう姿も見れます。」といった休みだと、そういう所もあるので、そういったことを最後のまとめのところでもいいかと思うのですが、先生方が家庭でのこういう姿が見たいと思うことも記述すべきだと思います。

この答申で気になることは、この答申を誰が読むのかということです。一般の保護者の方がこの答申を読んだ時に、「なるほどそうなんだ」と分かるような書き方、分かるような標記の仕方ということで言うと、この案ではよく分からないのです。何が良くて、何が問題で、何を議論したのか分かりにくい。ほとんどのところに説明としてアンケート結果を記載しています。これだと委員会で委員から色々発言された意見がアンケートだけしたら答申が書いてしまっているような気がするので、もう少し委員からこのような意見が出ていることも含めて、それについてはこのように議論しましたと分かるようなものでない

アンケート結果だけで答申を決めたような気が大変いたします。ですから、1点目として「子供の姿がもう少しそれぞれのところで見えるように記述する」、つまり、「こういう子供の姿を目指して改革したが、実際にこういう姿は見れたがこういう姿は見れていない」を含めて成果のところを記述する必要があります。課題のところについては、どういうことでアンケート結果がこういうことだったので、委員会ではこういう議論がなされて、それについては一定こういうふうな方向で委員の意見としてはまとまったのだということですね。特に先ほどパーセンテージだけで言うと短縮をもっと増やしたほうが良い方の割合が結構あるわけなので、それについて、単に「こうこうこうでした」ではなくて、そのことについては、こういう議論を尽くしたのだということをしかり記述していただいた方が良いのではないかという気がします。ここまで作成している答申をひっくり返すことを言って申し訳ないですが。

〈事務局〉 子供にとってより良い方向については、記述したいのですが、委員会の中で議論されていれば記述できるのですが、今までにそのような議論がされていないので今の状況では記述できていません。子供のための意見を委員からいただきたいです。

〈委員H〉 何回か会議で集まりましたが、私の印象も子供のことを話しているよりも、先生たちが大変なので、その現状をなんとかしたい会議という印象です。だから「子供の姿がもう少しそれぞれのところで見えるように記述する」のは無理だったと思います。

〈委員G〉 私は、無理に「子供目線」とか、「先生目線」とかにする必要はないと思います。そもそも、長期休業期間の短縮については、エアコンが導入される中で、色んな話があったことにより、この議題が上がっていると察しているのですが、「エアコンが導入されるともっと授業ができる」との意見があって、このことが議題に上がっているのであれば、エアコン導入は関係なく、きちんと先生の仕事、そして子供たちの休み、勉強ばかり詰め込むのは良いとは思わないし、休みも必要と思いますので、そのバランスが現状で取れていますからこのままで良いですときっちり明確に説明つけば、小学校は良いのかなと思っています。

〈委員D〉 主旨をなかなか子供メインとして全体的に記述できないので、先ほど言ったとおり各章の4のまとめの辺りで、学期制では小学生は長期休暇で学期を区切れば子供たちの生活にメリハリが付き、子供たちにとって良いことだと思います。そういうところで、子供たちも実態にあっていると思うし、そんな子供たちの今の生活に合っている学期制により充実させていきたいと子供たちのことを実際1番に考えてやっているもので、結びの辺りに記述してもらいたい。

〈委員H〉 もし最後に子供のことを入れたいのであれば、「忙しく」・「厳しいスケジュール調整」・「健康管理面」の3つは違う言葉に置き換えた方が子供のための記述を入れる時に「しっくり」すると思います。普通に夏季大会があるのだから、わざわざ「忙しく」と記述する必要はないと思います。

〈委員長〉 先ほど、子供の話は出ていないのでと言われましたが、書き方だと思います。多分、学校の先生が発言されているのは、言葉の表面では何かを語っていても、

その後ろには、「こういう子供とか」、「こういう子供にはこうさせてやりたい、こういう活動をさせてやりたい」いうことがあって、そのための時間の話をしているのですが、言葉では時間について言っているけれども、その時間は決して自分のための時間ではなく、子供のことを大前提に考えていて、そういうふうには言っていると私は思うので、やはりその辺りについて今の書き方では伝わらないと思います。それで、実際に子供の「この姿を見たい」からと語っていないので、それについて語っていただかないと議事録を取っても記述できないとの事務局の指摘については、理解はしますが、それについては、先生方の思いというものを含んでいただく必要もあると思います。決して教師側の「忙しい」と言っているのは、先生自身が忙しくて困っていると言っているのではなくて、「忙しいからこういう準備をしてあげられない」とか、「忙し過ぎてこういうことが十分にできていない」とか、そういうことだと思ってしまうので、言葉どおりだとそのように聞こえてしまうと思います。

「委員 J」 先ほど中学校の夏季休業の短縮の分は、普段の教育課程の工夫によって編成できると思います。そこが課題だと思います。ただ、今の 2 学期制であれば、8 月 25 日に始まっても学期の始まりではないですが、3 学期制に戻るとなれば、できれば小中学校を一斉にスタートする方がけじめが付くので市全体として良いと思います。その上で、中学校としては授業時間の確保は、来年度の 1 年間で編成を考えて足りない部分は計算できるので、その分は確保できるように努力して、余裕をもって編成すれば良いので、その部分はどこで検証するのか記述がないので気になります。検証を進める必要がありますと記述されていますが、どこで検証して改善していくのかわかりません。教師の忙しさは別の問題であって、別の方向で考えていただきたいと思います。その表現は削除してもらったほうが進みやすいと思います。

〈委員長〉 委員 J の意見は、中学校は現状維持で良いということですか。

〈委員 J〉 3 学期制になるのであれば、けじめが付くので小中学校を合わせて欲しいということですか。

〈委員長〉 現時点の答申案は、現状維持なのですが、吉田委員の意見は今後 1 年間の間に中学校を小学校に合わせるという意見でしょうか。それは 1 年間の間にどれくらい可能なのでしょうか。

〈委員 J〉 現状で言えば、1 週間短縮しても土日が入ってくる時が多くて、25 時間程度が 8 月中に授業していますので、25 時間を確保できればいけます。ただ、3 日間の間にも土日が入ってくることもあるので、現実的には 15 時間から 18 時間の間を確保できたら、その短縮で十分通用すると思います。

〈委員 G〉 警報で臨時休校になっても大丈夫ですか。

〈委員 J〉 今の計算は昨年度と今年度の一年間で 2 日臨時休校したとして計算しています。学校によって行事に違いがあります。

〈委員 H〉 8 月は 4 時間しかないのですが、今の計算は 5 時間でしていますね。

- 〈委員長〉 答申は現状維持を第1とし、中学校の1週間短縮については、今後教育課程編成の工夫等でより短縮時間を短くできるのが可能なのか現時点ではわからないので、もう一度日数等についてこの答申が出た後に検討していただいて、短縮が可能かどうかと中学校の方で一定検証していただくことにすればいかがでしょうか。それで中学校全てが一致でできるとなれば良いのですが。
- 〈委員G〉 第2章の短縮の成果に記載されている臨時休校の増加に効果があると矛盾しませんか。
- 〈委員長〉 正確に計算した訳ではないのですが、今で足りないことはないのです、中学校では7日の短縮が必要かを課題に入れて、中学校では精査することにします。
- 〈委員J〉 岩出市ではできているので、3日でできないことはないという意見です。
- 〈委員長〉 当答申では、長期休業の短縮は現状維持ですが、中学校ではそのような意見も出ているから、教育課程の工夫等で短縮期間を短くすることが可能なのかは、検討していただくことにします。必ず短縮できるかはこの委員会では確認できていません。
- 〈委員H〉 中学生は、夏休を損していると感じています。
- 〈委員長〉 充実していれば、損したことはないです。充実した学校生活を送れるように、3日が数合わせになるのではなく、子供たちがその3日間を楽しく充実して過ごせるようなことも含めて、短縮のあり方を単なる日付合わせでなく、エアコンが導入されたからで終わらず、子供にこういう教育をしたいということも踏まえて、審議まとめて記述する必要があると思います。
- 〈委員C〉 委員Dの意見に賛成で、審議まとめのところに教員が前面に出ないように子供を主語にした表現が必要です。最後の3行も「期間中の行事や教員の健康管理等」を省けば、収まりが付くと思います。
- 〈委員長〉 かつての答申は、そのようでしたが、説明責任から賛否両論を記述し、論じ切れなかったことも記述した方が良くと思います。そういうことも含めて、保護者の理解も頂いて、教師側に立つとこのような課題もあるということも一定記述した方が、中学校側からは短縮は3日で十分だと意見も出ていることも記述してもいいと思います。今後の議論で検証すべきとの表現も必要だと思います。議論が一致しなかったことは、課題として残して、議論もこの辺りで終わっていると記述すれば良いと思います。結論は現状維持ですが、十分議論した上で現状維持で今後の検討が必要と記述すれば、委員の皆さんに議論していただいた意義があると思います。アンケートの記述が多い部分を見直し、一般の市民に見ていただいても分かり易い表現に修正し、積み残した課題もまとめ、工夫して修正していただきたいと思います。修正部分を事務局と委員長でやり取りして、次回の委員会を2月13日から17日の間で開催して答申を提出したいと思います。そのため、1月に修正した答申案を郵送していただいて、意見をいただき、正式な委員会ではないワーキングを開催し、意見を反映させて、次回の委員会では、修正が完了した答申を提出したいと思います。

〈事務局〉 修正案を郵送後の 1 週間後にワーキングを開催するでよろしいでしょうか。
1 月 23 日の週に郵送し、1 月末までに意見をいただき、2 月の最初の週でワーキングを開催して意見を練り直し、2 月 13 日の週に委員会を開催することにします。

〈委員長〉 来年の 2 月 13 日（月）から 17 日（金）までの間に次回の委員会を開催させていただきたいと思います。日程はいかがでしょう。

（日程を調整し、2 月 16 日に決定する。）

（ワーキング日程は委員長と事務局で決定し後日通知する。）

〈委員長〉 以上を持ちまして第 3 回紀の川市教育課程検証委員会の会議を閉会したいと思います。お疲れ様でした。